

平成 30(2018)年さけます来遊状況(第 4 報:11/30 現在)

4 サケ年齢組成と体サイズ

国立研究開発法人水産研究・教育機構
北海道区水産研究所 さけます生産技術部

- 11 月末時点での年齢別来遊数を推定すると、全国、北海道、本州において、4 年魚（2014 年級）が全体の 8 割を占め、5 年魚（2013 年級）の少なさが顕著
- 北海道の沿岸漁獲の平均重量は 3.04kg で、1989 年以降で最も小さい水準
- 北海道の主要河川に回帰した 4 年魚の平均尾叉長は、近年では 2012 年に次いで小さい

※以下文章中の平年は、平成 6（1994）～平成 29（2017）年の平均値を示す

・サケの年齢組成 (全国)

全国の主要な河川に回帰したサケの年齢査定をもとに、11 月末時点における年齢別来遊数を推定したところ、4 年魚（2014 年級）が全体の 80%を占めて最も多く、5 年魚（2013 年級）及び 3 年魚（2015 年級）がそれぞれ 12%、6%となっています。4 年魚の割合は 1994 年以降で一番高く、逆に 5 年魚の割合が一番低くなっています。4 年魚の来遊数は前年同期の 218%と前年を大きく上回っていますが、5 年魚は 52%と大きく減少しています。平年同期との比較では、それぞれ 76%と 17%となっており、4 年魚は 1994 年以降で少ない方から 8 番目ですが、5 年魚は一番少ない状況です。また、3 年魚は前年同期の 47%、平年同期の 55%となっており、1994 年以降では 4 番目に少なくなっています（図 1）。

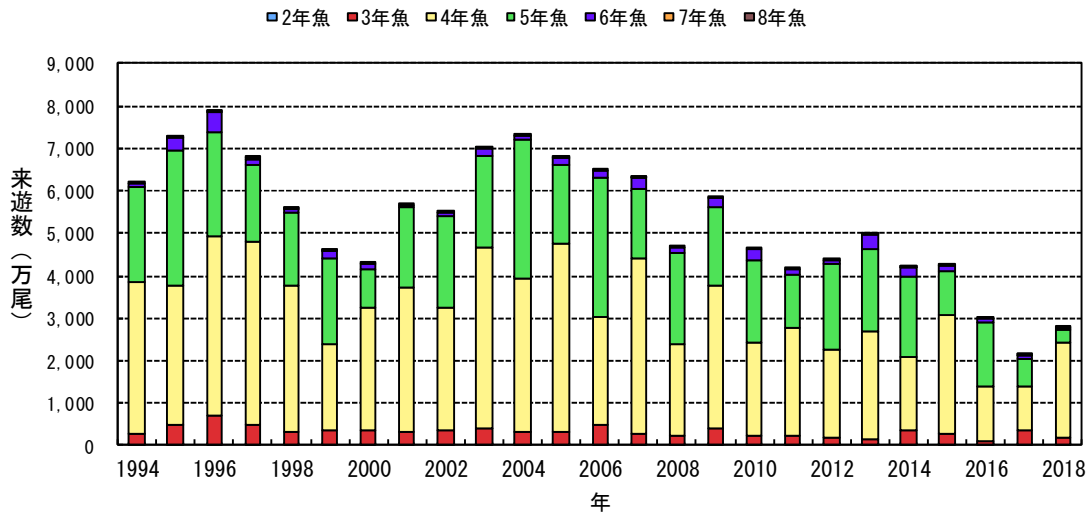


図 1. 11 月末時点のサケ年齢別来遊数 (全国).

(北海道)

4年魚(2014年級)が全体の80%を占めて最も多く、5年魚(2013年級)及び3年魚(2015年級)がそれぞれ12%、7%を占めています。4年魚の来遊数は前年同期の227%と前年を大きく上回っていますが、5年魚は49%と大きく減少しています。平年同期との比較では、それぞれ76%と16%となっており、4年魚は1994年以降で少ない方から6番目ですが、5年魚は一番少ない状況です。また、3年魚は前年同期の58%、平年同期の76%となっており、1994年以降では6番目に少なくなっています(図2)。

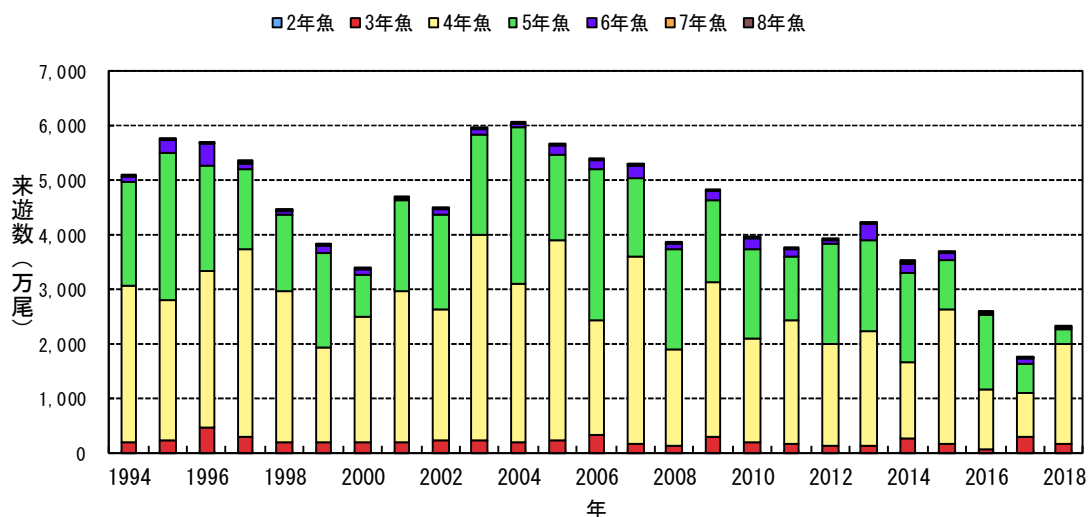


図2. 11月末時点のサケ年齢別来遊数(北海道).

年級群(生まれ年)ごとの来遊数をみると、今年の5年魚である2013年級は、5年魚までの来遊数(2~5年魚の来遊数)で比べた場合、1992年級以降の平均の27%と、1992年級以降で一番少なくなっています。一方、4年魚である2014年級は4年魚までの来遊数(2~4年魚の来遊数)で比べた場合、1992年級以降の平均の81%の水準で、少ない方から7番目となっています(図3)。

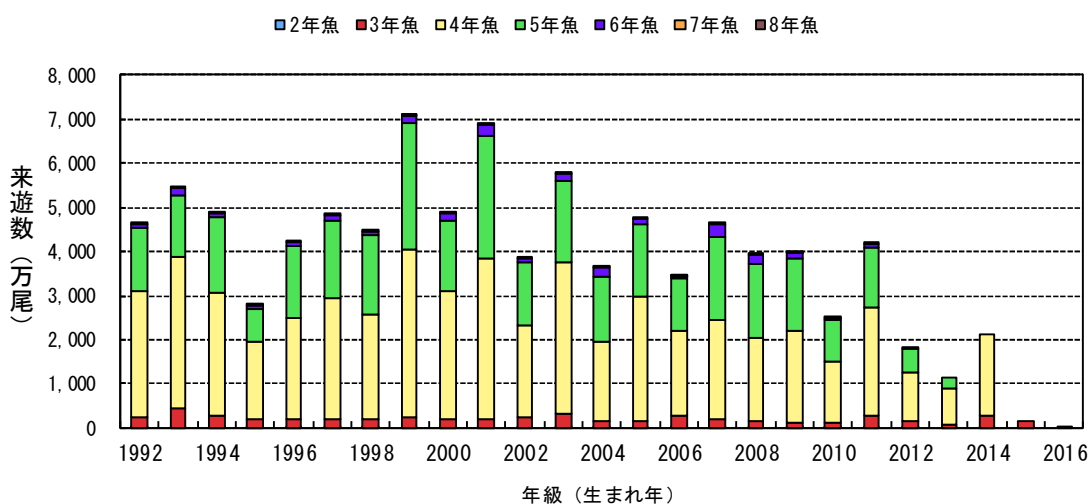


図3. 11月末時点のサケ年級群(生まれ年)別来遊数(北海道).

地域別にみると、太平洋側（根室～えりも以西海区）では、4年魚が全体の81%を占め、5年魚の割合は9%にとどまり、3年魚の割合は8%となっています。4年魚は前年同期の352%、平年同期の59%と前年を上回っていますが、5年魚は前年同期の50%、平年同期の10%にとどまり、1994年以降で一番少なくなっています。なお、3年魚は前年同期の58%、平年同期の69%となっています（図4）。

日本海側（オホーツク海区及び日本海区）では、4年魚が全体の79%を占め、5年魚の割合は14%、3年魚の割合は6%となっています。4年魚は前年同期の179%、平年同期の98%と前年を上回っていますが、5年魚は前年同期の49%、平年同期の24%と、1994年以降で一番少なくなっています。また、3年魚は前年同期の57%、平年同期の84%となっています（図5）。

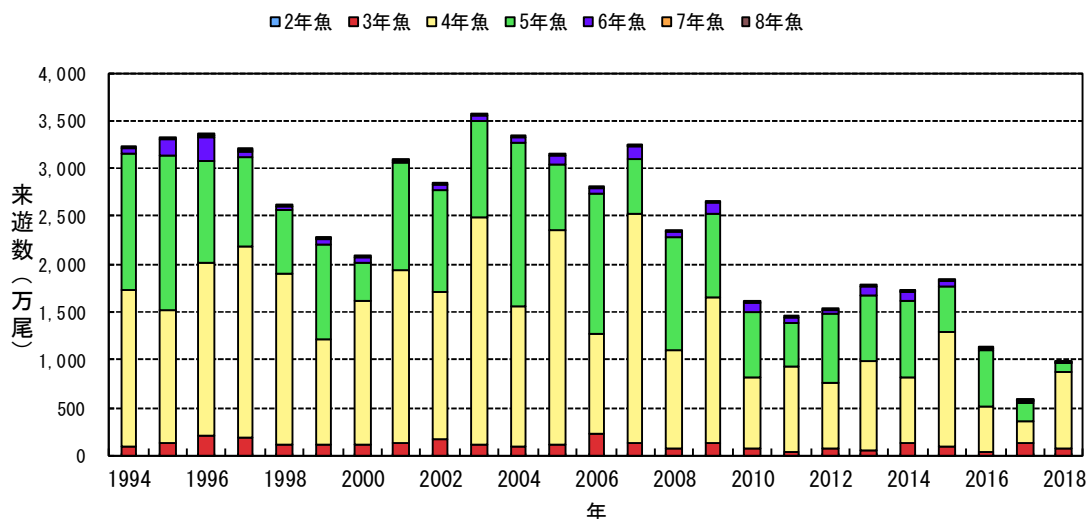


図4. 11月末時点のサケ年齢別来遊数（北海道太平洋）.

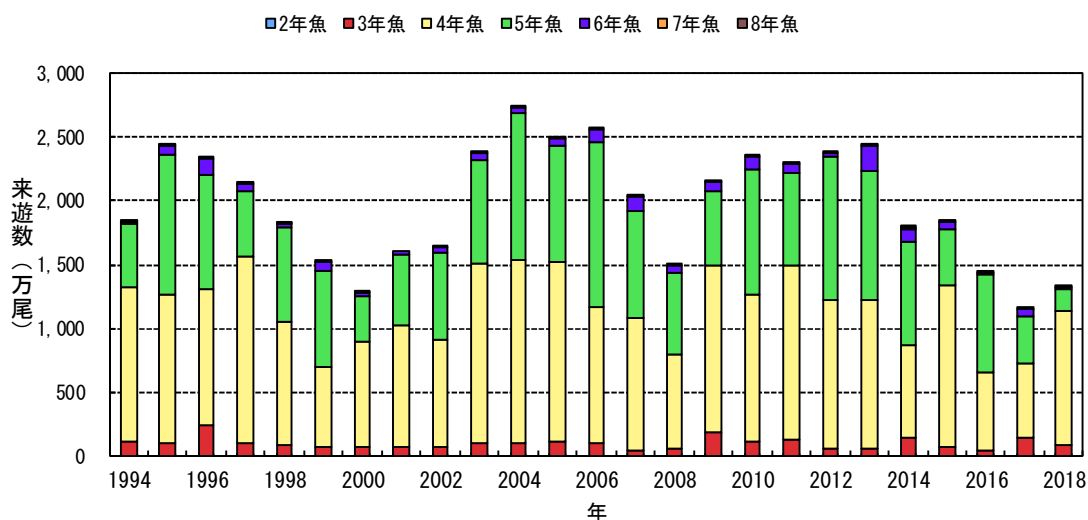


図5. 11月末時点のサケ年齢別来遊数（北海道日本海）.

(本州)

本州太平洋側では、4年魚（2014年級）が全体の84%を占めて最も多く、5年魚（2013年級）及び3年魚（2015年級）がそれぞれ11%、3%を占めています。4年魚の来遊数は前年同期の197%と前年を大きく上回っていますが、5年魚は68%と減少しています。平年同期との比較では、それぞれ71%と18%となっており、4年魚は1994年以降で少ない方から9番目ですが、5年魚は一番少ない状況です。また、3年魚は前年同期の16%、平年同期の13%となっており、1994年以降では一番少なくなっています（図6）。

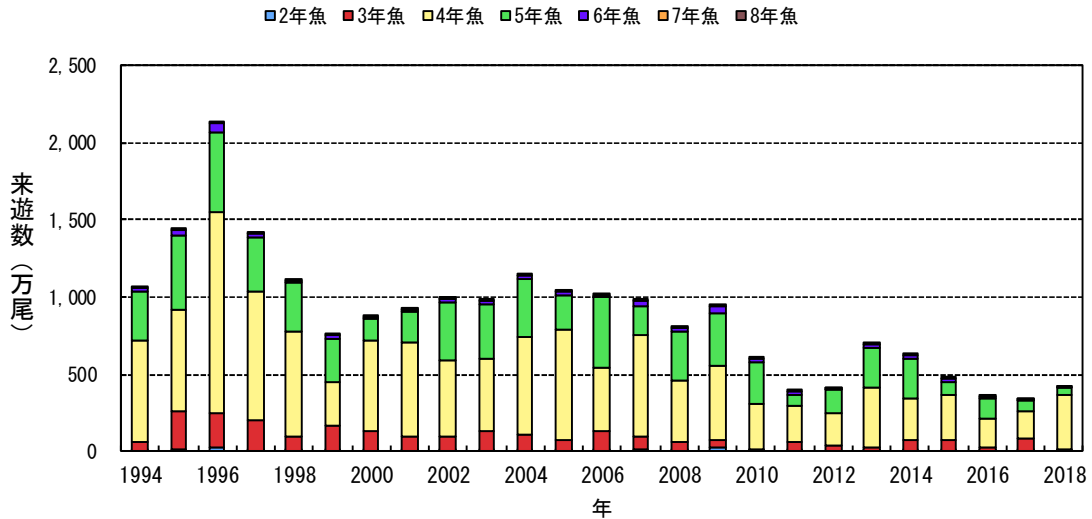


図6. 11月末時点のサケ年齢別来遊数（本州太平洋）.

本州日本海側では、4年魚（2014年級）が全体の80%を占めて最も多く、5年魚（2013年級）及び3年魚（2015年級）がそれぞれ11%、7%を占めています。4年魚の来遊数は前年同期の117%、5年魚は109%と前年を上回っています。平年同期との比較では、それぞれ101%と54%となっており、4年魚は平年並み、5年魚は1994年以降で少ない方から4番目となっています。また、3年魚は前年同期の17%、平年同期の25%となっており、1994年以降では2番目に少なくなっています（図7）。

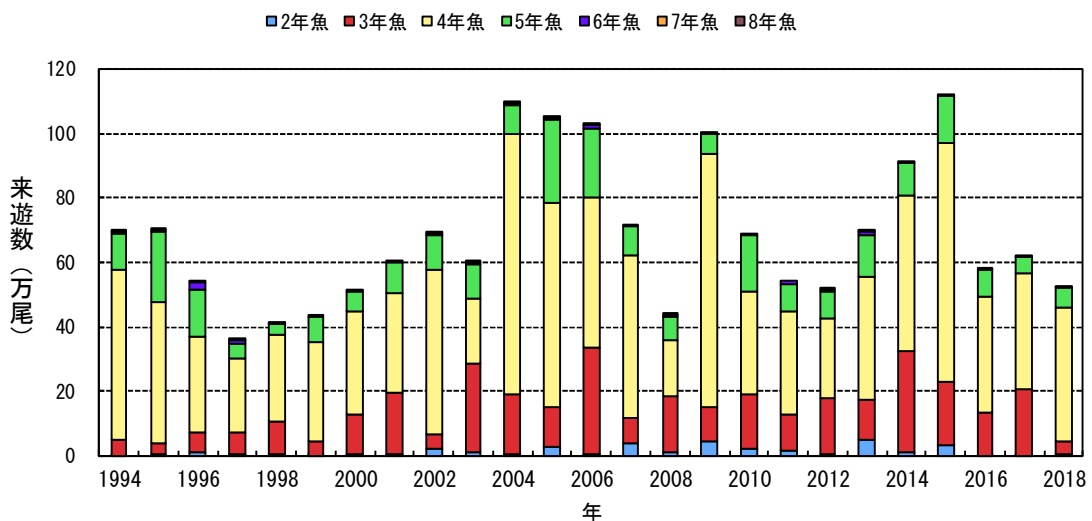


図7. 11月末時点のサケ年齢別来遊数（本州日本海）.

・サケの体サイズ

北海道における 11 月 30 日現在のサケ 1 尾当たりの平均重量（サケ漁獲数と漁獲重量から算出）は 3.04kg であり、前年同期（3.43kg）の 89% と大幅に減少し、1989 年以降で最も小さかった 1994 年（3.02kg）と同じ水準となっています（図 8）。

北海道の主要河川に回帰したサケ 4 年魚の平均尾又長は、前年に比べ 2~3cm 小さくなっており、近年では 2012 年に次ぐ小ささになっています（図 9）。

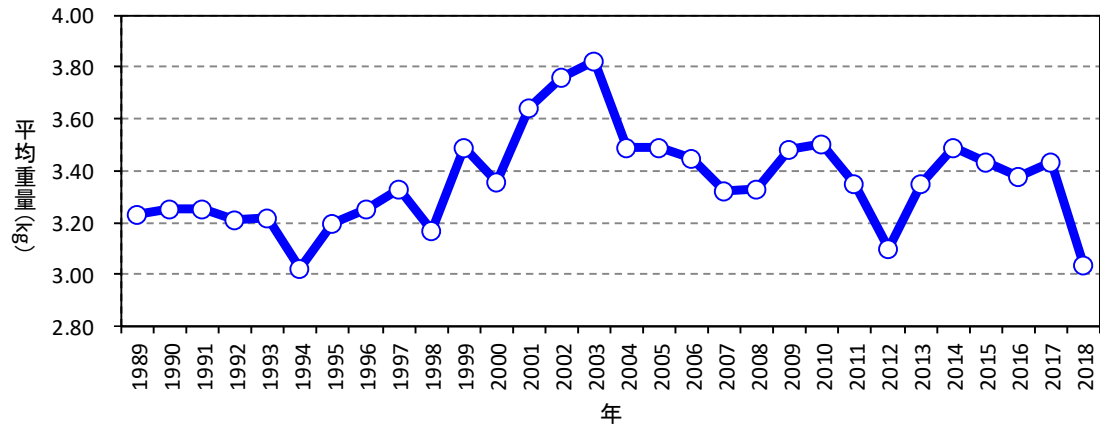


図 8. 11 月末時点のサケ平均重量 (北海道).

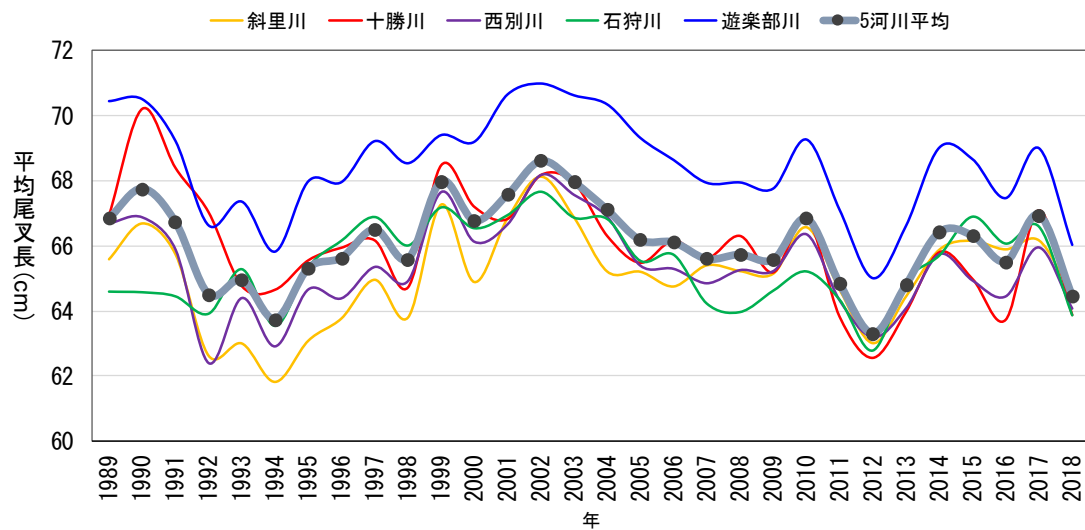


図 9. 北海道の主要河川におけるサケ 4 年魚 (雌雄込み) の平均尾又長.